

ろうさい病院つうしん

発行所: 中部ろうさい病院

〒455-8530 名古屋市港区港明1-10-6 TEL: 052-652-5511
https://www.chubuh.johas.go.jp/ FAX: 052-653-3533

当院の理念

納得、安心、そして未来へ

当院の基本方針

- ・医療の質の向上と安全管理の徹底
- ・生命の尊厳の尊重と患者さん中心の医療
- ・人間性豊かな医療人の育成と倫理的医療の遂行
- ・地域社会との密な連携と信頼される病院の構築
- ・災害・救急医療への積極的な貢献と勤労者に相応しい高度医療の提供

手術支援ロボット“ダビンチ”を導入しました

院長補佐（外科） 水谷 哲之

当科では2023年7月から手術支援ロボット“ダビンチ”による手術を開始しました。

今回は新しく開始いたしましたロボット支援下手術についてご紹介いたします。

ロボット支援下手術は当初泌尿器科領域で普及が進んでいましたが、2018年に胃癌、直腸癌、食道癌にも保険適用となり、消化器外科領域でも急速に普及が進んでいます。

ロボット支援下手術のメリットとしては、術野が高解像度の3D画像で見えること、多関節機能のある鉗子により繊細で直感的な操作が可能であること、手ぶれ防止機能があるため鉗子操作が安定すること、などがあります。これらの機能により従来の腹腔鏡手術に比べ、より繊細で精密な手術が可能となり、短期的、長期的な予後の改善に繋がることが期待されています。

その反面、従来の腹腔鏡手術よりも手術時間が長くなる（0.5～1時間程度）、コストが高くなる、等のデメリットもありますが、これは今後手技の習熟やデバイスの進化によって徐々に解消されていくものと思われます。

現在、当科では直腸癌に症例を絞って導入を開始しましたが、今後は結腸癌、胃癌にも適応を拡大していくことを考えております。昨今のロボット支援下手術の急速な広まりを見ると、将来的には現在の腹腔鏡手術の多くはロボット支援下手術に置き換わっていくようです。当科でも低侵襲手術が可能なロボット支援下手術を積極的に進めてまいりますので、今後も変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。



私達が手術します！

私の臨床メモ（専門医による治療紹介）

その7

糖尿病性神経障害 (DPN)の治療

脳神経内科部長 上條 美樹子



糖尿病性神経障害DPNの典型的な訴えは「足底に何か張り付いたような違和感・ジンジン感」であり、「手袋靴下型」よりもさらに足底に限局します。足背や下腿に症状がある、左右差がある、上肢症状が優位な場合は、糖尿病があっても神経根症など糖尿病以外の可能性・混在を考えます。このような症例では侵害受容性疼痛治療薬（NSAIDsなど）の反応をみます。実は、しびれや・痛みの原因が糖尿病と断定できる症例は有症者の3割程度にすぎません。

プレガバリン・ミロガバリンは末梢神経障害性疼痛の治療薬ですが、あくまで疼痛にのみ有効で、「餅が張り付いたような違和感」を訴える知覚鈍麻型のDPNには無効です。そればかりか知覚鈍麻の強い症例や高齢者に安易に使用すると、ふらつき（感覚失調）・転倒の誘因となるため禁忌と言っても過言ではありません。痛みと知覚鈍麻が共存する場合にはプレガバリン・ミロガバリンが有効ですが、「継ぎ足歩行ができない」、「階段降りてすり要」などの患者さんには少量から慎重に投与します。

高血糖の急速なコントロールが生じた症例では治療後痛性神経障害を起こすことがあります。アルコール多飲者など栄養障害が背景にある場合が多い印象です。プレガバリン・ミロガバリンを副作用に注意しながら積極的に増量し、無効であれば非麻薬性鎮痛薬（オピオイド）を使用します。稀ですが、疼痛とともに急速に下肢近位筋の萎縮・筋力低下を来す神経障害（糖尿病性腰仙神経叢障害）があり、この場合はステロイドパルス・IVIgといった免疫療法を早期に導入することによって良好な治療効果が期待できます。

神経障害の診断には神経伝導検査や腰椎神経根のMRIなど専門的な検査が必要です。脳神経内科では適切な疼痛管理のみでなく内服効果の乏しい知覚鈍麻型のDPNに対しても、病期に応じた対症療法のアドバイスが可能です。非典型的な神経障害、特に疼痛症例は炎症性神経障害との鑑別が必須ですので脳神経内科にご紹介いただき治療法を探索することをお勧めいたします。

CARE BOOKについて



院長補佐 篠田 典宏

清秋の候、病診連携の先生方におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

当院におきましては、入院患者さまの転院調整における業務課題があり、転院調整が滞り、在院日数が延びてしまう課題がありました。原因の一つとして、電話対応による調整を行なうことが考えられていました。電話対応による調整の問題点は、

- ①複数の医療機関に一つ一つ電話をかける必要がある。
- ②1回の電話に要する時間がかかる。
- ③電話をかけても業務中でつながらないことがあり、後でもう一度かけることがしばしばある。

などが挙げられました。そこで、4月から当院ではこれらの問題を解決するためにCAREBOOKというクラウドサービスを導入しました。

CAREBOOKでは各病院に一括で転院調整の依頼ができるため、一つ一つに電話をする必要がなくなりました。

また、病院間の連絡はチャットで対応するために1回の電話で要する時間は短縮でき、自分の空いた時間にチャットを確認すれば良いため、電話が繋がらずに、後でもう一度かける必要がなくなりました。

ある解析では、転院調整の打診連絡、情報共有にかかる時間短縮により、1件あたりの業務時間が80分削減されたと報告されています。

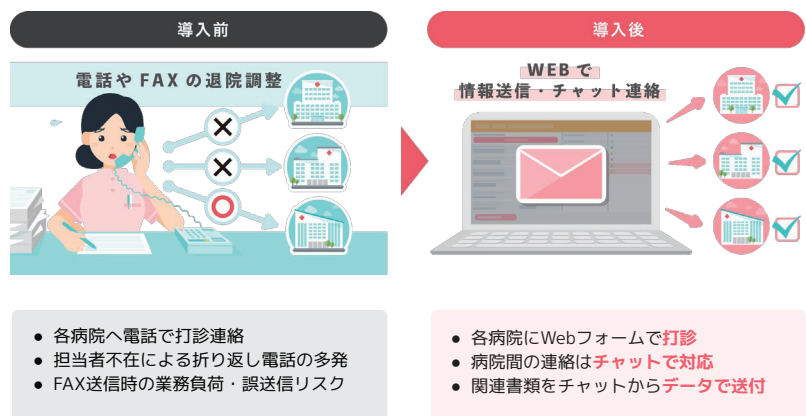
当院でも在院日数が、直近では11日に短縮するなど転院調整にかかる時間が短くなり、より多くの患者さまの入院受け入れが可能になっております。

これからも急性期病院としての役割を務めていきたいと思っております。引き続き病診連携へのご協力よろしくお願いいたします。

CAREBOOKとは

Confidential

CAREBOOKは転院調整業務の負担軽減・効率化をサポートするクラウドサービスです



© 3Sunny, Inc.

地域医療連携室からのお知らせ

画像診断病診連携予約について ～当院の最新3テスラMRI装置のご紹介～

時下益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。平素より、当院の地域連携について、ご理解をいただき、誠にありがとうございます。

さて、今回は当院で導入しております「3テスラMRI装置」をご紹介します。同装置は、高分解能と高画質を担保したうえで、撮影時間の大幅な短縮が可能な撮影技術を搭載しており、既に多くの連携医療機関様にご利用いただいております。

なお、MRI画像診断は、平日お越しいただくことが難しい方にもご利用いただけるよう、土曜日、日曜日の撮影予約が可能となっております。

当院のMRI装置をご利用いただくことで診療の一助となれば幸いです。

- 【特徴】・ 広い撮像領域
・ 高精度および高解像度
・ 呼吸ベルトや心電図センサー不要
(撮影寝台にセンサー埋め込み)



MAGNETOM Lumina 3テスラMRI

※体内金属の埋め込み状況等により1.5テスラMRI装置にて撮影させていただく場合がございます。

メディカルサポートセンター

(平日 8:15～19:30)
(TEL) 052-652-5950
(FAX) 052-652-5716

センター長：篠田 典宏（院長補佐）
副センター長：鈴木 陽子（看護副部長）
副センター長：庄山 武（医事（連携）課長）
連携係長：酒井 伸郎（入院係長）
事務担当：今枝 智子・安井 正幸

医師交代

●令和5年8月1日付け（補職）

滝澤 直歩 院長補佐、第二リウマチ科部長
渡邊 剛史 院長補佐、第三リウマチ科部長、
第二総合内科部長

●令和5年9月30日付け（退職）

茂木 一将 産婦人科医師
竹内 一生 脳神経外科医師

●令和5年10月1日付け（採用）

小田 結加里 産婦人科医師
倉橋 真吾 整形外科医師
川口 直人 脳神経外科医師

●令和5年10月12日付け（育休）

小山 千里 形成外科医師



広報委員長：循環器内科 篠田 典宏

編集担当：脳神経内科 上條 美樹子

医事課員 今枝 智子

皮膚・排泄ケア認定看護師 櫻井 由紀子